

(1) まず身の安全を

ぐらっと揺れたらまず身の安全を最優先する。★1

テーブルの下などに^{もぐ}潜る。 むやみに外に飛び出さない。

その次に火事につながる熱源を消す。★2

台所のコンロ、暖房器具（電気ストーブ）、その他

避難路を確保する。★3

玄関ドアを開ける。 ベランダへのガラス戸を開ける。

電気関係を始末する。★4、★5

電気器具類のスイッチ、分電盤のブレーカーを切る。

非常持ち出し品を用意する。★6

状況を確認する。

- ★1. 大きな地震が起こったときは、何はともあれ身の安全を確保します。
大きな家具のそばから離れ、テーブルの下などに入ります。
むやみに外に飛び出さないほうが安全です。
- ★2. 最初の揺れが収まったら、火の元を点検します。
台所のコンロを付けていたらスイッチを切ります。タバコの火は大丈夫ですか？
- ★3. 玄関まで行けるなら、行ってドアを開けておきます。
次に、ベランダのガラス戸を開けます。避難路を確保するのです。
- ★4. 電気器具のスイッチを切ります。できればコンセントはすべて抜きます。とくにアイロン、ヘアードライヤー、トースターなどの熱器具は、すぐにプラグをコンセントから抜きましょう。地震直後に停電が起こり、使っていた電気器具が作動しなくても、何日か後に電気が復旧すると、その電気器具はまた作動します。

(参考) 阪神大震災のときには、電気が通じたとき、例えば、倒れているのに気付かず、スイッチを切っていなかった電気スタンドが点灯して過熱し、覆いかぶさった衣類などに火が付いて燃え広がった、そんな火災が何件も起きました。

- ★5. 建物を離れて避難するときには、必ず分電盤のブレーカーを切ります。避難先から戻ったときは、逆にブレーカーを入れることになりますが、そのときはスイッチが入ったままの器具があるか、念のためチェックすることが大切です。

分電盤の付近には物を置かないようにしましょう！

不幸にして火災が起きた時、電気製品の消火は、必ず「消火器」で行う。万一、電気製品が燃えた場合は、むやみに水をかけたりせず、まずブレーカーを切って、消火器で消してください。消火器には、電気製品の消火に適しているかどうかが表示されています。日頃から確認しておいてください。(電気火災(C火災)の青色マークの表示があれば使えます。)

- ★6. あらかじめ作ってあるリストに従って、非常持ち出し品を用意して避難の準備をします。(日頃の備え用 (6) 持ち出し品の用意 30~32 ページ)

(参考) 日頃の備えが大切です。電気製品は倒れない工夫をしましょう。

テレビや冷蔵庫などの大型電気製品は置く場所に注意し、固定器具などで倒れないように工夫をしましょう。

また、テレビのそばには水槽や花瓶などを置かないでください。

水がこぼれてテレビにかかると、発火する恐れがあります。